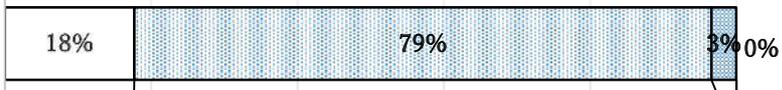
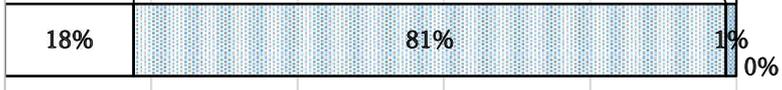
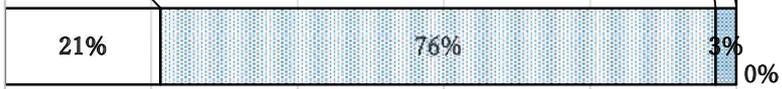
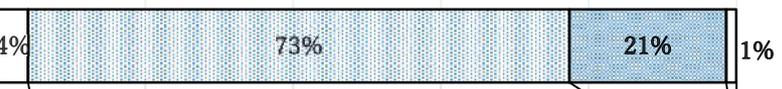
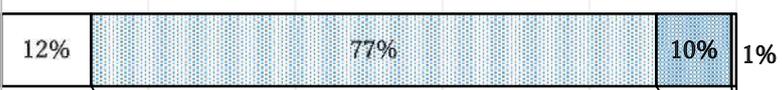
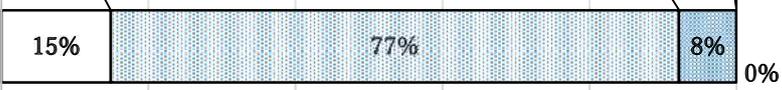


令和5年度 学校評価

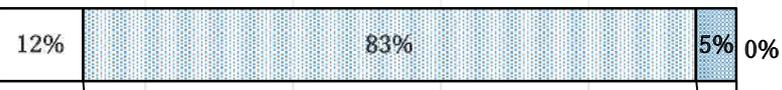
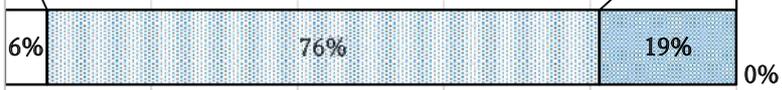
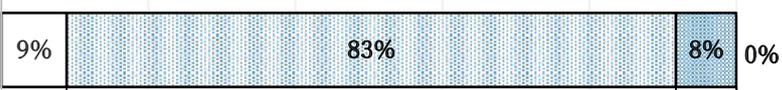
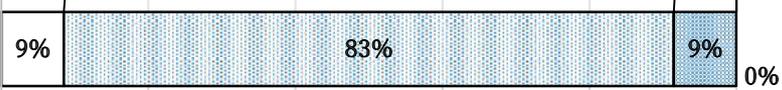
職員による自己評価の結果	・・・・・・・・	P	1
保護者による学校評価の結果	・・・・・・・・	P	6
学校評価の結果を受けて	・・・・・・・・	P	11

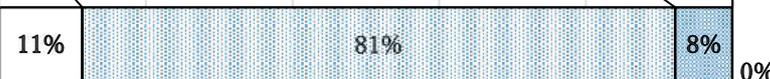
鹿児島県立鹿児島南特別支援学校

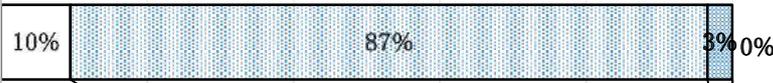
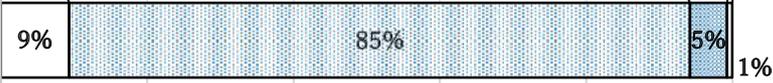
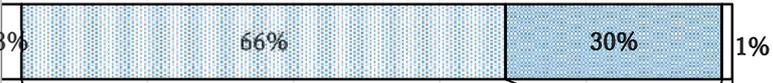
職員による自己評価の結果

南特プラン	1 人権尊重に基づいた指導態勢を整えるとともに、教育相談等を通じて児童生徒や保護者の思いを深く受け止め、発達の段階や特性に応じた丁寧なかかわり合いを進める。		
目標	(1) 児童生徒の人権を尊重した言動を心掛け、丁寧なかかわり合いに取り組む。		
結果	第1回		評 定 第1回
	第2回		A：継続 (80%以上) 第2回
			A継続 (80%以上)
0% 20% 40% 60% 80% 100% □4 十分達成 □3 おおむね達成 □2 やや不十分 □1 不十分			
目標	(2) 児童生徒・保護者の思いを受け止める教育相談や情報交換に取り組む。		
結果	第1回		評 定 第1回
	第2回		A：継続 (80%以上) 第2回
			A継続 (80%以上)
0% 20% 40% 60% 80% 100% □4 十分達成 □3 おおむね達成 □2 やや不十分 □1 不十分			
南特プラン	2 危機管理マニュアルの整備と具体的な対応の習熟を図るとともに、ヒヤリハットの早期共有化と再発防止を図る。		
目標	(1) 教職員全員がマニュアル等を理解し、有事に備える意識と実践力を高める。		
結果	第1回		評 定 第1回
	第2回		B：検討 (60～79%) 第2回
			A継続 (80%以上)
0% 20% 40% 60% 80% 100% □4 十分達成 □3 おおむね達成 □2 やや不十分 □1 不十分			
目標	(2) ヒヤリハットを早期に共有し、再発防止策を講じ事故等の発生を防止する。		
結果	第1回		評 定 第1回
	第2回		A：継続 (80%以上) 第2回
			A継続 (80%以上)
0% 20% 40% 60% 80% 100% □4 十分達成 □3 おおむね達成 □2 やや不十分 □1 不十分			

南特 プラン	3 命と健康を大切にする指導を充実し、健康の保持増進と安心・安全な施設設備の整備に取り組むとともに、保健指導・安全指導の更なる充実を図る。		
目 標	(1) 健康な体づくりのために、養護教諭や栄養教諭、関係する係との連携を深める。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回
			A：継続 (80%以上)
			第2回
			A継続 (80%以上)
目 標	(2) 安心・安全な校内環境を整え、病気やけがを未然に防ぐための環境整備に取り組む。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回
			A：継続 (80%以上)
			第2回
			A継続 (80%以上)
南特 プラン	4 各専門家等と連携し、自立活動の指導の専門性を高めるとともに、保護者や看護師、主治医、療育機関などとの連携の下、医療的ケアの充実を図る。		
目 標	(1) 外部専門家との連携や自立活動に関する研修・情報提供等を充実し、教職員個々の指導・実践力を高める。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回
			A：継続 (80%以上)
			第2回
			A継続 (80%以上)
目 標	(2) 学校全体で、医ケアの課題と対応やサポートのあり方について共有し、学校としてその専門性を内部留保できるようにする。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回
			A：継続 (80%以上)
			第2回
			A継続 (80%以上)

南特 プラン	5 個別の教育支援計画及び指導計画のPDCAサイクルを充実し、授業等への活用を促進するとともに、一人一人の合理的配慮を明確にし、個々のニーズに応じた支援を充実させる。		
目 標	(1) 一人一人のニーズを多面的かつ的確にとらえ、具体的な目標設定と実践に生かす。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回 A：継続 (80%以上)
			第2回 A継続 (80%以上)
目 標	(2) 教職員全員が、学習指導要領を踏まえた授業改善に取り組む。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回 A：継続 (80%以上)
			第2回 A継続 (80%以上)
南特 プラン	6 キャリア教育の段階や指導の観点をもとに、学部・学級間の交流や合同学習等を工夫・充実させ、児童生徒一人一人の夢と希望を大切にしながら系統的かつ継続的な進路指導を進める。		
目 標	(1) 児童生徒の実態に応じ、将来の家庭生活や職業生活につながる実践に取り組む。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回 A：継続 (80%以上)
			第2回 A継続 (80%以上)
目 標	(2) キャリア教育における各学部の系統的な指導に取り組む。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回 A：継続 (80%以上)
			第2回 A継続 (80%以上)

南特 プラン	7 幼・保・小・中・高等学校等への支援の充実や交流及び共同学習，ボランティア活動などを継続し，センター的機能の充実や共生社会の実現に向けた取組を進める。		
目 標	(1) 実態に応じた交流及び共同学習等を工夫・改善して取り組む。		
結 果	第1回		評 定 第1回
	第2回		A：継続 (80%以上)
			第2回
			A継続 (80%以上)
目 標	(2) 地域の学校等の実情等に応じたセンター的機能を発揮する。		
結 果	第1回		評 定 第1回
	第2回		A：継続 (80%以上)
			第2回
			A継続 (80%以上)
南特 プラン	8 ICT機器の効果的な活用により主体的・対話的で深い学びを目指した指導法の改善・充実を図るとともに，ICT機器の操作等の専門性を高めるための研修を充実させる。		
目 標	(1) 全ての教育課程の指導において，効果的なICT機器の活用に取り組む。		
結 果	第1回		評 定 第1回
	第2回		A：継続 (80%以上)
			第2回
			A継続 (80%以上)
目 標	(2) ICT機器の操作等の専門性を向上させるための研修を充実する。		
結 果	第1回		評 定 第1回
	第2回		A：継続 (80%以上)
			第2回
			A継続 (80%以上)

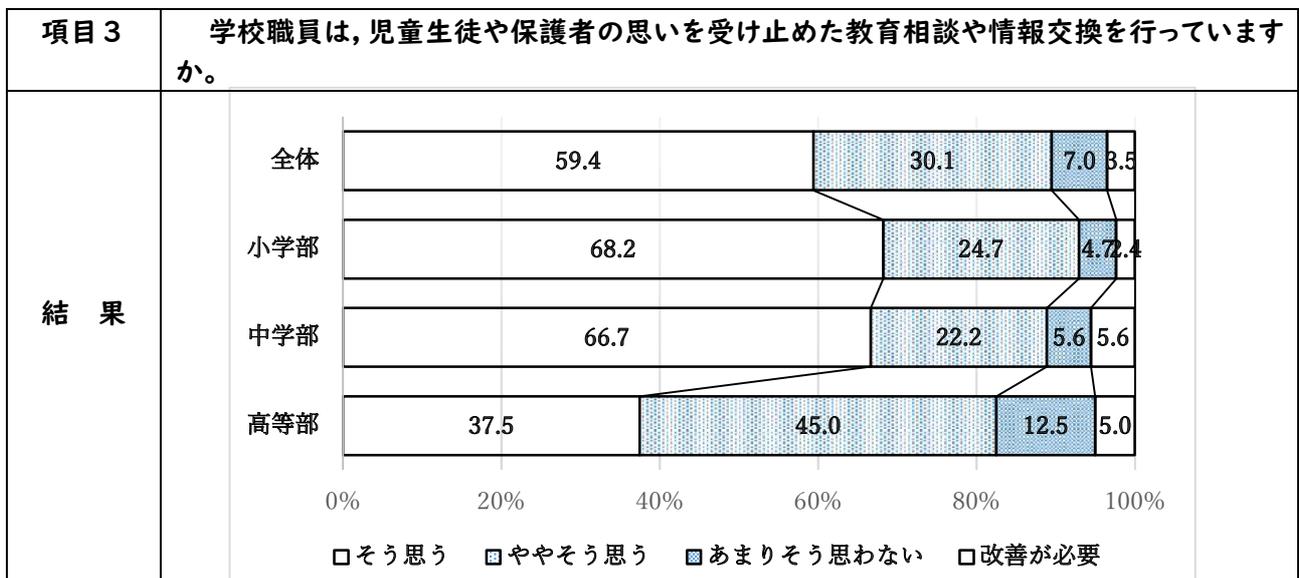
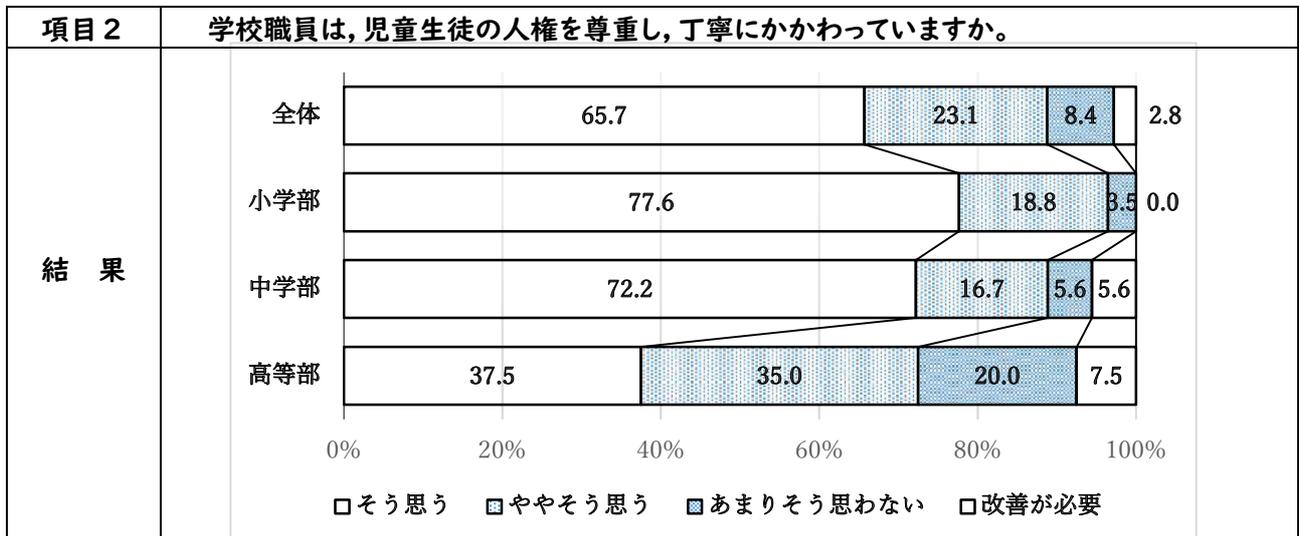
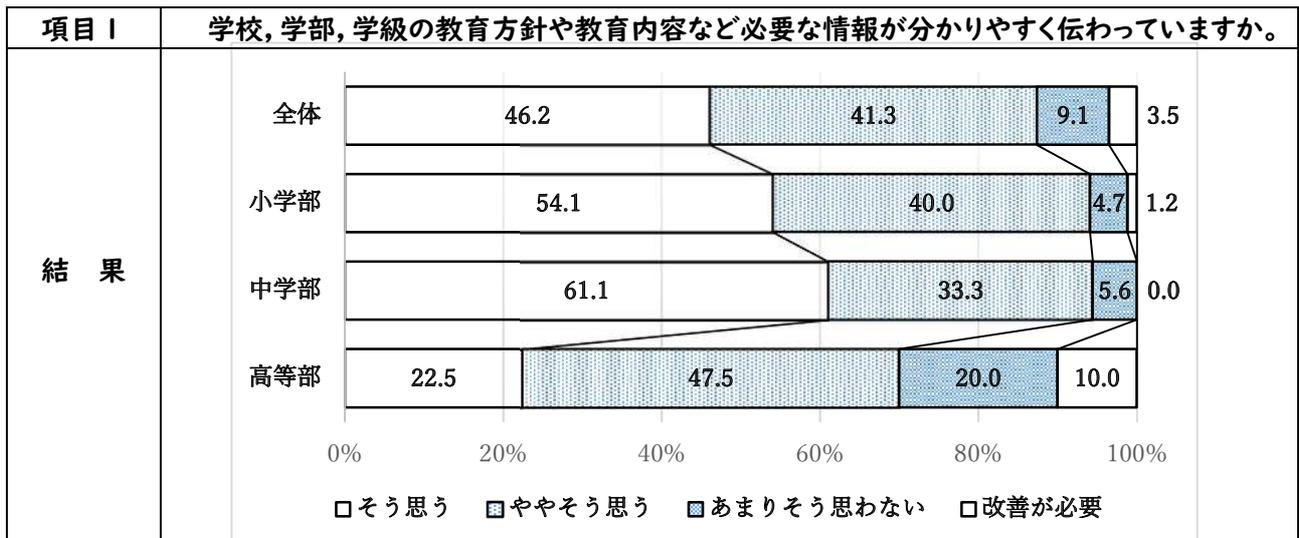
南特 プラン	9 保護者や地域、関係機関との連携を深め、開かれた学校づくりに取り組むとともに、校内外の学校評価を計画的・効果的に進めることで、具体的な改善を図る。		
目 標	(1) HP や学級通信等で保護者への情報提供を行うとともに、教育相談等を充実する。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回
			A：継続 (80%以上)
			第2回
目 標	(2) 学校内及び外部評価を踏まえ、計画的に工夫しながら改善する。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回
			A：継続 (80%以上)
			第2回
目 標	A継続 (80%以上)		
南特 プラン	10 業務の「簡素化」「効率化」「意識化」を踏まえた業務改善を継続し、心身ともに健康でやりがいを感じながら職務を遂行できる環境づくりに取り組む。		
目 標	(1) 全職員が業務改善を実践し、年間の勤務時間外の学校在校時間 360 時間以内を厳守する。事務職員及び用務員は適正な勤務時間の管理を行う。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回
			B：検討 (60～79%)
			第2回
目 標	A継続 (80%以上)		
目 標	(2) 校務分掌業務の簡素化と効率化に取り組み、教材研究の時間確保に取り組む。		
結 果	第1回		評 定
	第2回		第1回
			B：検討 (60～79%)
			第2回
目 標	A継続 (80%以上)		

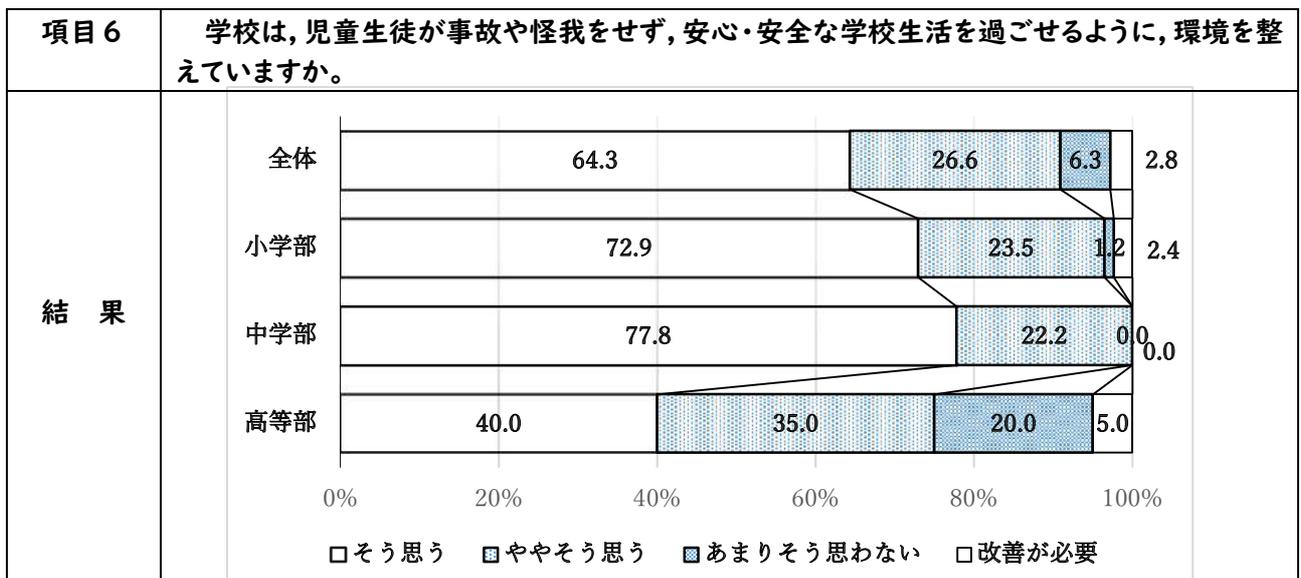
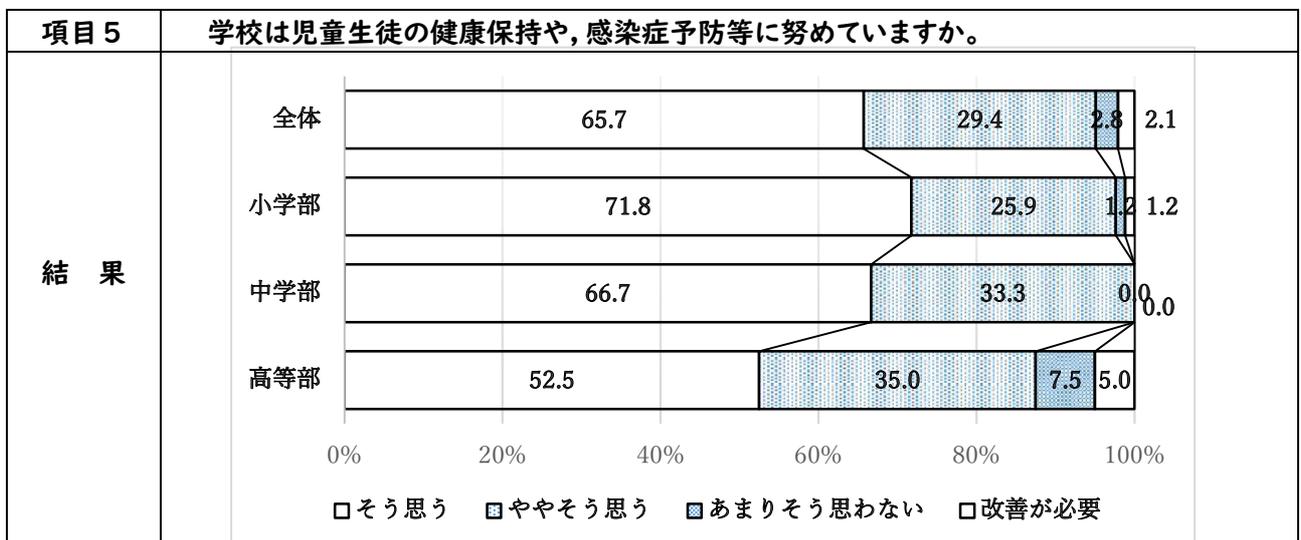
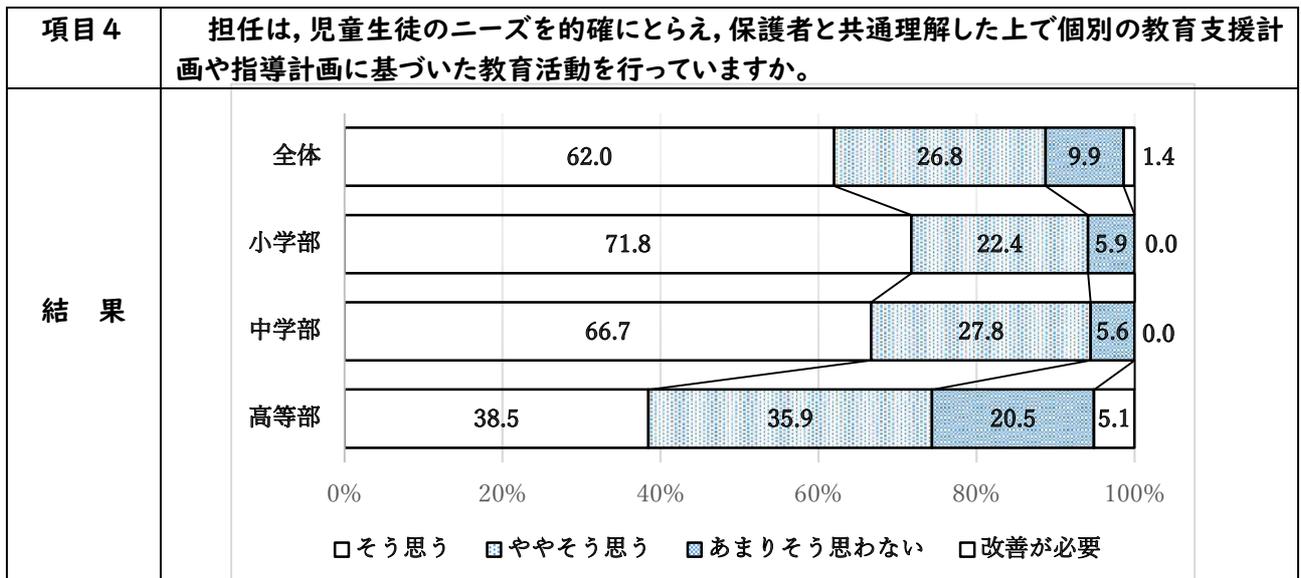
保護者による学校評価の結果

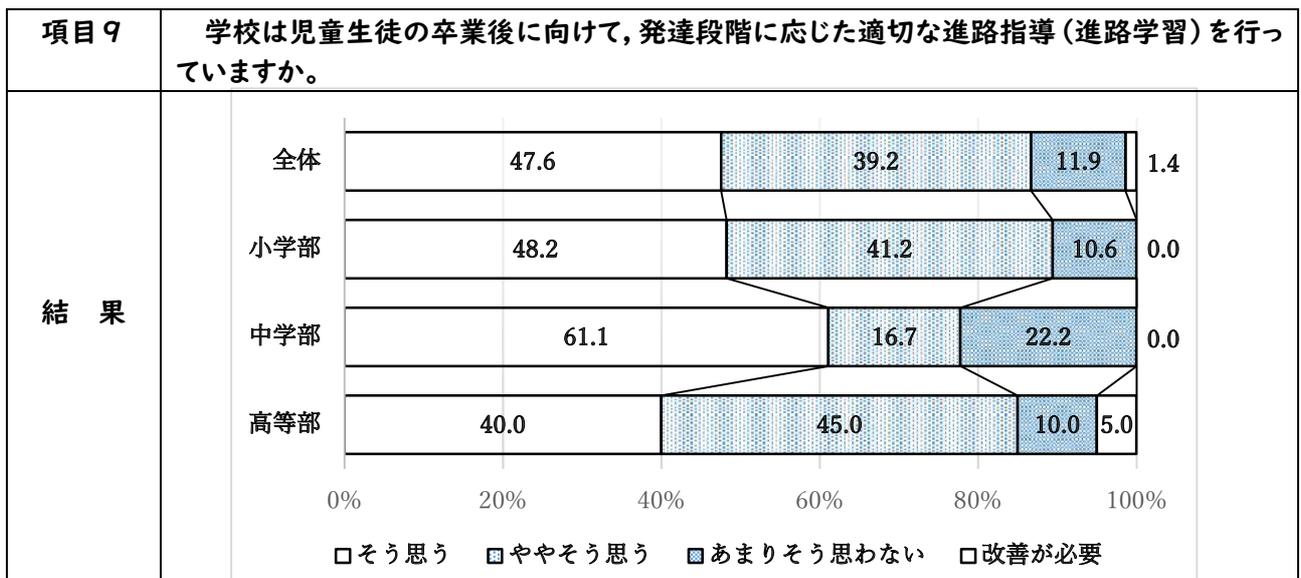
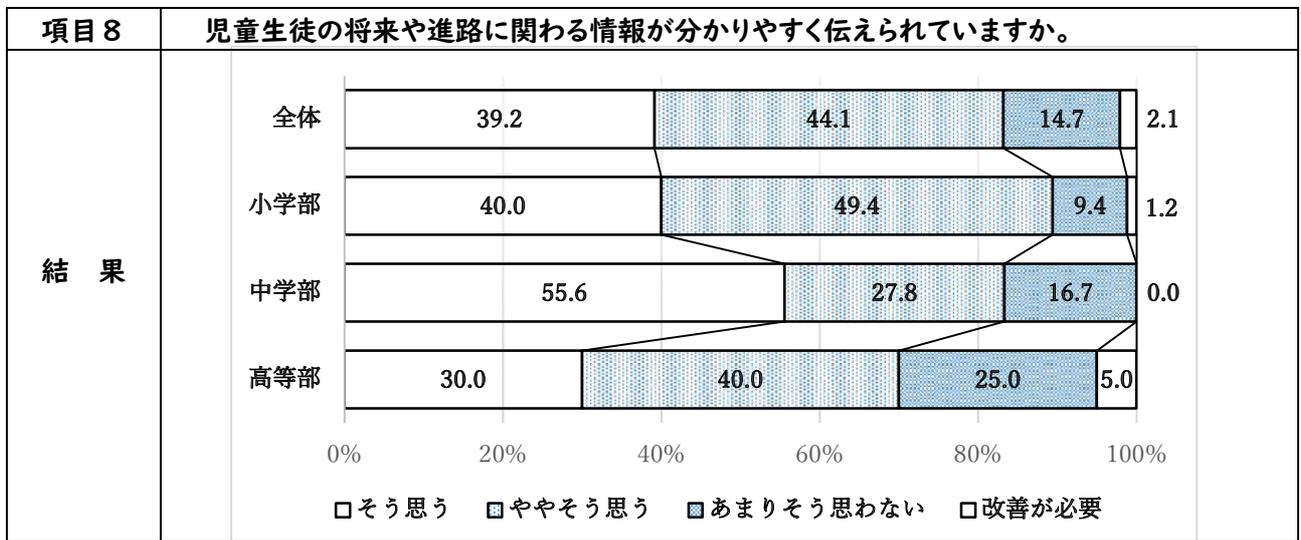
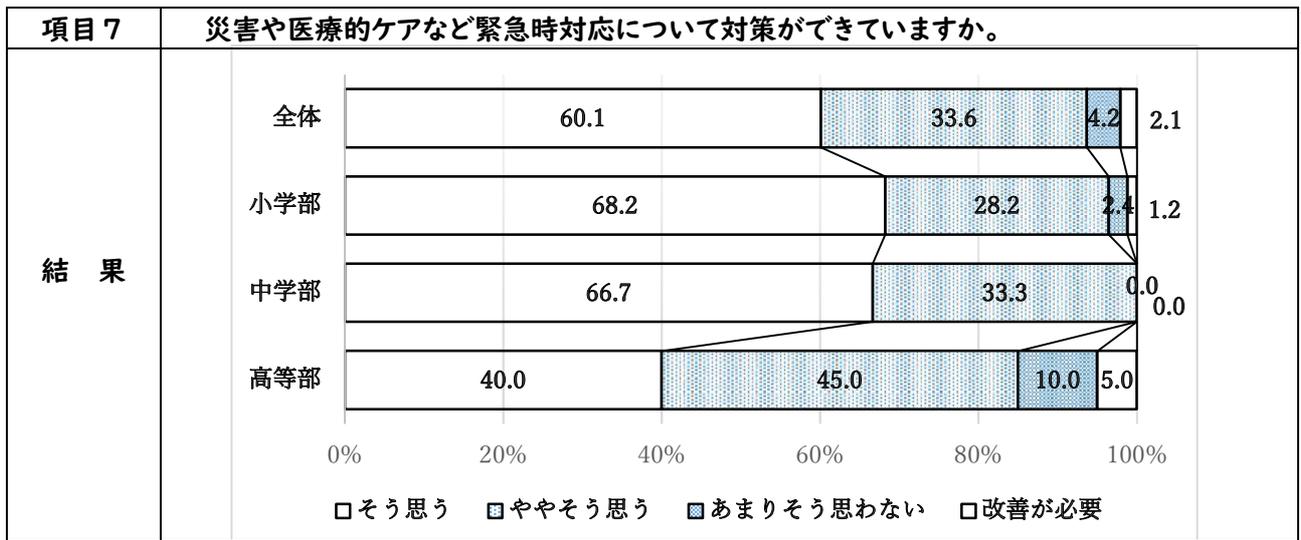
I 評価項目及び学校の取り組み

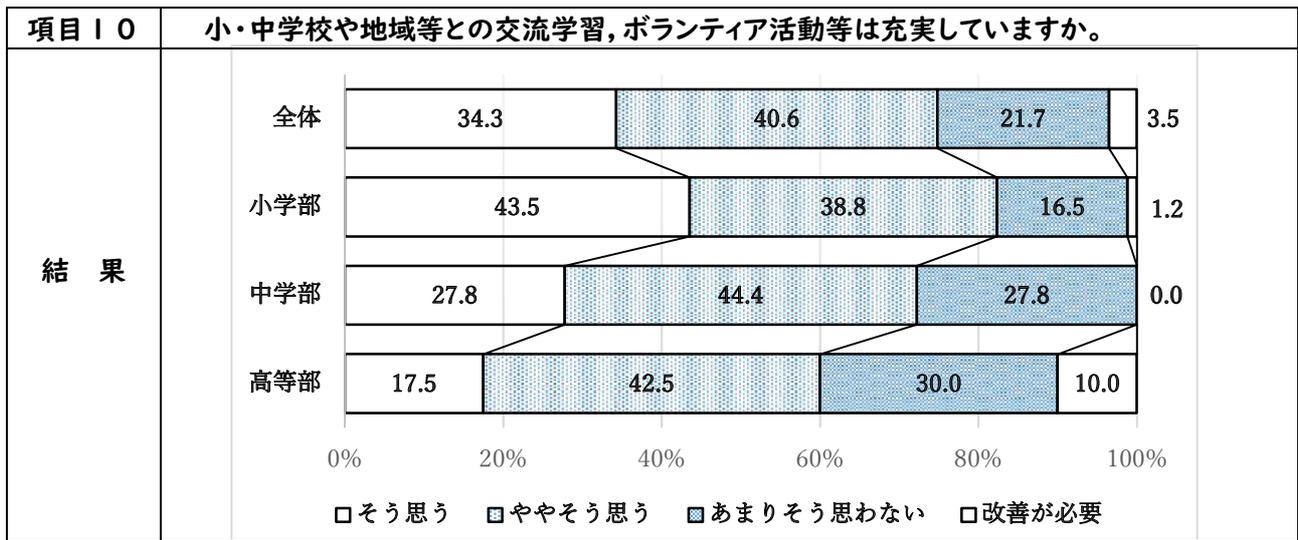
番号	上段：アンケート項目
	下段：学校の取り組み
1	学校、学部、学級の教育方針や教育内容など必要な情報が分かりやすく伝わっていますか。
	・ 連絡帳や学年・学級通信、学部説明会やみなミーティング、ホームページや学校だより、安心・安全メール等を活用したお知らせなど。
2	学校職員は、児童生徒の人権を尊重し、丁寧にかかわっていますか。
	・ 児童生徒が安心して生活ができ、自分の思いや考えを自由に表現することができる学校や学級づくり。児童生徒への明るく丁寧な言葉掛けの実践など。
3	学校職員は、児童生徒や保護者の思いを受け止めた教育相談や情報交換を行っていますか。
	・ 教育相談期間の設定や必要に応じた教育相談の随時設定、連絡帳を活用した保護者との情報交換の実施など。
4	担任は、児童生徒のニーズを的確にとらえ、保護者と共通理解した上で個別の教育支援計画や指導計画に基づいた教育活動を行っていますか。
	・ 教育相談で保護者と共通理解して作成した、個別の教育支援計画や指導計画に基づいた学習内容の設定や指導・支援の実施など。
5	学校は児童生徒の健康保持や、感染症予防等に努めていますか。
	・ 検温や健康観察、手指消毒やこまめな手洗い、換気の実施、状況に応じたマスクの着用や学習集団・活動内容の工夫など。
6	学校は、児童生徒が事故や怪我をせず、安心・安全な学校生活を過ごせるように、環境を整えていますか。
	・ 教室・校舎内外の環境整備や避難訓練、防災訓練の実施、ヒヤリハット事例の共有や再発防止策の共通理解など。
7	災害や医療的ケアなど緊急時対応について対策ができていますか。
	・ 保護者と連携した防災袋の準備、緊急時を想定した引き渡しカードの準備、主治医指示書の確認、安心・安全メールを活用した情報発信など。
8	児童生徒の将来や進路に関わる情報が分かりやすく伝えられていますか。
	・ 進路に関する情報を掲載した進路だよりの発行、PTA研修視察や進路研修会等の実施にあたっての保護者との連携など。
9	学校は児童生徒の卒業後に向けて、発達段階に応じた適切な進路指導（進路学習）を行っていますか。
	小：基本的な生活習慣の確立を目指した指導、進路学習、中学部体験学習等 中：進路学習、校内実習、職場見学、職場体験、高等部体験学習等 高：進路学習、校内実習、体験学習、産業現場等における実習等
10	小・中学校や地域等との交流学习、ボランティア活動等は充実していますか。
	・ 近隣の学校との交流学习やボランティアタイム等での地域の方々との交流、居住地校交流の実施（希望者）など。

2 集計結果









学校評価の結果を受けて

1 職員による自己評価

全20項目中、全ての項目で評定A（継続）となり、関係する係の取組や職員一人一人の取組が学校全体に定着してきていることがうかがえました。

（前回、評定Bの内容は 目標2（2）、10（1）、（2）であった）

しかし、項目によっては、気付きや意見、改善案等が多数挙がっているものがあり、より具体的な取組や改善を行いながら、更なる充実を図る必要があると考えられます。

職員からの意見、改善案等が特に多かった項目は以下のとおりです。

「1（1）児童生徒の人権を尊重した言動を心掛け、丁寧なかかわり合いに取り組む」

「2（1）教職員全員がマニュアル等を理解し、有事に備える意識と実践力を高める」

「5（2）教職員全員が、学習指導要領を踏まえた授業改善に取り組む」

「6（2）キャリア教育における各学部の系統的な指導に取り組む」

「10（1）全職員が業務改善を実践し、年間の勤務時間外の学校在校時間360時間以内を厳守する。事務職員及び用務員は適正な勤務時間の管理を行う」

これらの事実を踏まえ、関連する係等から改善策が提案されたり、研修を行ったりしています。また、提案された意見や改善案等を参考に、実践できるものについては、早急に取り組んでいきます。

2 保護者による学校評価

(1) 小学部について

非常に高い評価（そう思う＋ややそう思う 95%以上）は項目2、項目5、項目6、項目7でした。普段の関わりや、来校時の対応の様子を参観する中で、児童との丁寧な関わりを理解していただけているのではと思われます。また、健康保持や感染症予防、安心・安全な学校のための環境整備、緊急時の対応等についても理解をいただいていると思われます。

最も低い評価は、項目10（交流学习関係）でした。新設移転の年ということもあり、他校や地域等との交流もこれからという時期ですが、これまでとの比較もあったのではと推察されます。次年度以降につきましては検討を行い、また、情報提供も行っていく予定です。

(2) 中学部について

非常に高い評価は項目5、項目6、項目7でした。小学部と同様、学校の健康・安全面に対する取組に理解をいただいていると思われます。

評価が低いものは、項目9、項目10でした。項目10については小学部と同様の理由も考えられます。項目9（進路指導について）については、学校での普段の取組や学習の紹介の不足、高等部のある学校としての連携の紹介の不足や期待からの評価ではないかと考えられます。

進路指導、キャリア教育について、学校での取組の紹介、情報提供等を行うよう、留意して取り組んでいきます。

(3) 高等部について

本校として0からのスタートであったためか、他学部と比較すると厳しい傾向の評価が多くなりました。これは、高等部（新設校）に対する期待の表れでもあるのではと受け取れます。保護者の方から「新しいからこそ、鹿児島の最先端の特別支援学校であり続けてほしい」という御意見もいただきました。

高い評価は、項目3、項目5、項目7、項目9でした。教育相談等への取組や進路指導についてはおおむね理解していただいていると思われます。また健康面や緊急時の対応については小・中学部と同様に取組を理解していただいていると考えられます。

低い評価は項目10でした。高等部にも交流学习を期待する記述が見られました。